

■ 書 評

足部診療ハンドブック

編 高倉義典・山本晴康・木下光雄

霊長類が二足歩行を獲得した進化の過程で、四肢関節の形態は機能的要請に応じて変化してきた。そして、足部は大地との柔軟な接触ができる形態に、足関節は大きな荷重を支持できる安定した形に変わってきた。したがって、足部や足関節の傷害はいかに軽症であつても歩行障害という重大な機能障害をもたらすものである。それにもかかわらず、本邦においては、足の疾患は患者さんのみならず医師からも若干軽視されてきたきらいがある。「足搔ぎ(あがき)」、「足を洗う」、「足切り」、「足軽」、「足蹴」など「足」の語感に由来するものであろうか、それとも靴の歴史が浅いためであろうか、いずれにしても、今日スポーツ人口の増加や外観のみにとらわれた多様な履物の出現に伴い、足部・足関節の傷害は増加の傾向にある。こうした状況の下に、「足部診療ハンドブック」が刊行されたことは誠に時宜を得たもので、喜ばしい限りである。

さて、内容であるが、本書は高倉義典(奈良県立医科大学助教

授)、山本晴康(愛媛大学教授)、木下光雄(大阪医科大学助教授)の足のエキスパート3氏による編集で、現在日本足の外科学会で活躍中の58人の諸氏により分担執筆されている。構成は、「総論」、「小児・思春期編」、「成人編」の3章からなり、本文415頁に図表520点が呈示されている。「総論」では機能解剖、診断、検査、保存療法、手術療法がそれぞれ詳細に記述されている。なかでも装具療法の項は、装具の考え方、作製方法、臨床応用、さらに治療靴について丁寧に解説されている。私自身この分野は不勉強であつたが、履物と健康に対する関心が急速に高まってきた今日、外来診療において靴の選択についてアドバイスを求められることが多くなってきており、こうした折にも本書は適切な指導や助言を可能なものとしている。

「小児・思春期編」と「成人編」では、それぞれの執筆者が私見を排した真摯な態度で各種疾患の概念、病因、臨床所見、必要な検査、治療法、予後をわかりやすく記述

している。履物文化は欧米に近づいたとはいえ、日本人による日本人の足部・足関節疾患の記載である点が訳書とは異なり、日本人に特有な病態と疾病ごとの靴指導を含めた保存療法の記載は、特筆に値する。ただ、ごくわずかであるが不鮮明であつたり、注目箇所を示すべき矢印を欠いた図が見られる。しかし、これらは本書の本質的な価値を損なうものではなく、版を重ねる中で改められるであろう。

本書は、現在のところ、足部・足関節の疾患を網羅、解説した和書としては最も優れた書の一つであり、編者各位に敬意を表すとともに、整形外科専門医をめざす研修医のみならず第一線で活躍中の整形外科専門医にとっても有用な書であると確信し、ここに推薦する次第である。

(鳥取大学整形外科教授

豊島 良太

B5/440頁/図200/

写真610/表44/

2000/定価(本体14,000+税)/

医学書院 刊/〒400)

MEDICAL BOOK INFORMATION

医学書院

義肢装具学 第2版

編集 川村次郎・竹内孝仁

編集協力 古川 宏・林 義孝

●B5 頁418 図174 写真246 表36 2000

定価(本体7,000円+税) 7400

[ISBN4-260-24384-5]

好評をいただいた『義肢装具学』の改訂第2版。経験主義から脱皮し、科学性と基礎理論を背景とした新しい義肢装具学を志向。単なる知識の寄せ集めでなく、現場の知見に富んだ生き生きとした記述を目指し、最近の進歩もできる限り収載。分かりやすい図や写真を多用したビジュアルな構成。読者の理解度をチェックする演習問題付。